

「第17回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

令和7年12月

産業日本語研究会世話人会

代表：井佐原 均	(追手門学院大学)
委員：辻井 潤一	(産業技術総合研究所)
橋田 浩一	(理化学研究所)
内山 将夫	(情報通信研究機構)
柏野 和佳子	(国立国語研究所)
李 在鎬	(早稲田大学)
関口 明紀	(日本特許情報機構)

開催趣旨：

AIが紡ぐ言葉と世界：生成AIと人間の共創

産業日本語研究会では、産業・科学技術情報の発信力強化や知的生産性の向上を通じて、わが国産業界全体の国際競争力強化に資するような、人間が理解しやすく機械が処理しやすい日本語（「産業日本語」）のあり方を研究しています。この「産業日本語」の研究は、明瞭な日本語文の作成、高品質な翻訳文の作成コスト低減などにつながるものであります。

近年、学習したデータに基づいて文書や画像などを生成することができる生成AIが人間の作業を支援するツールとして活用されるとともに、課された課題を自律的に実行可能なAIエージェントなども登場しています。一方で、生成AIが運用する言語能力の不透明性や、生成AIの利用により地域に根差した文化等の理解が薄れて言語の均一化につながる危険性、他者権利侵害などのリスクも抱えています。

このような背景のもと、今回のシンポジウムでは、「AIが紡ぐ言葉と世界：生成AIと人間の共創」をテーマとし、生成AIの利用が加速する中で、生成AIの言語能力の分析や教育等への活用、AIエージェントへの応用や日本文化との関わり方、著作権との関係などの生成AIに関連した講演のほか、生成AI時代における大型辞書の役割や新聞と辞書の間の言葉のゆれの問題など、産業日本語の未来を考える上で最新の知見やトピックスを広くご紹介いただきます。

本シンポジウムが、産業日本語の更なる普及につながり、我が国産業に大いに貢献できる機会になることを期待しております。産業界、学術界などからの、多くの皆さまのシンポジウムへのご参加をお待ちしております。